

照于一隅

「いちぐうをてらす」

比叡山高等学校

比叡山高等学校の部旗には「照于一隅」と書かれています。

この言葉は、延暦寺を創建した伝教大師が桓武天皇に宛てて記した「山家学生式(サノガガキョウシキ)」という文書に出てくる言葉です。「径寸十枚 是れ国宝にあらず 一隅を照らす 是れ即ち国宝なり」つまり、「直径3センチもある宝石十個(金銀財宝のたとえ)は国の宝ではない。世の中の一隅で暮らしていてもその場所で精一杯努力し、光りを放つことのできる人こそ国の宝である」という意味です。(天台宗公式ホームページ参照)

深遠な伝教大師の教えを見事に凝縮した言葉であると思います。

昭和44年に鎌倉隆雄先生と田中正義先生が同時に比叡山高校に赴任されて以後、お二人の先生が力を合わせて剣道部を育ててこられました。私事ですが、昭和48年に大津商業高校に赴任しました私は、近隣ということもあり大商の生徒を連れて比叡山の道場にお邪魔するなど、両先生や比叡山高校の生徒諸君に大変お世話になりました。

さて、この部旗は両先生が、平成19年3月、お二人同時のご退職を記念して、天台大僧正比叡山千手院住職であり、大津市剣道連盟会長の小林隆彰師に揮毫をお願いされて作られ剣道部に寄贈されたものと聞き及んでいます。

また、この部旗が出来る以前には、比叡山高校には武田信玄公の旗印として有名な「風林火山」という言葉が書かれた部旗がありました。この部旗は、両先生が赴任された時の部員が卒業するときに、両先生への感謝の気持ちと後輩への激励のために寄贈したものであったようです。鎌倉、田中両先生が全教員生活を通じて築き上げてこられた比叡山高校剣道部に学ぶ諸君は、これらの部旗に励まされて自ら輝くべく錬磨していることと思います。